第009号

NPO 法人
茨城県防災士ネットワークだより

発行日　平成26年10月吉日
発行元　特定非営利活動法人
茨城県防災士ネットワーク
責任者　広報・機関紙部長
高橋　茂
編集制作・機関紙副部長　加瀬　孝雄

1. いばらき防災大学におけるHUG 研修会指導並びに講演報告

本年度も茨城県から平成26年度いばらき防災大学への講師派遣の依頼があり、講演並びにHUG（Hinanzyo Unei Game の略）の研修指導を行った。昨年は、DIG研修を行ったが、東日本大震災において茨城県ではピーク時に約 77,000 名にものぼる避難者が出て 594 箇所の避難所が開設された経緯があることから、本年度は、HUG研修を実施することになった。会場は、かすみがうら市千代田公民館で2日間にわたり行われ、受講者は昨年とほぼ同数の約160名となった。

今回、計4回の日程の内、当ネットワークでは、第1回目（8月23日）の講演と第2回目（9月7日）のHUG研修を担当することになった。

初回の講演では「防災士の役割と活動内容の紹介」と題して高橋副理事長が発表し、また「地域での防災の活動状況」については、西村理事長と加瀬県央エリア長が発表した。

西村・加瀬防災士

高橋防災士

一方、９月７日のＨＵＧ研修については中村　隆専務理事をリーダーとして下記会員の協力のもとで実施した。

中村　隆、野口正弘、林昌子、谷口行男、横田信子、宮本博海、野村彰、中崎智雄、藤城充英、小池實、加瀬孝雄、黒田一雄、鶴長文正、山田章、井出洋一、貝塚勇、横山松夫、福島末輝、西村正夫、高橋茂（敬称略、順不同）

HUG研修を行っている状況を以下に掲載します。

HUG研修状況

この研修会は地域の防災リーダーを育成することで自主防災組織の結成を促進し、自助・共助に基づく地域の防災力の向上を図ることを目的としている。

2. 「DIG 研修」,「HUG 研修」並びに「避難所開設」研修会実施報告

前号掲載以降に行われた各種研修会における指導状況は以下の通りである。（敬称略、順不同）

研修内容	対象団体名	参　加　会　員　氏　名

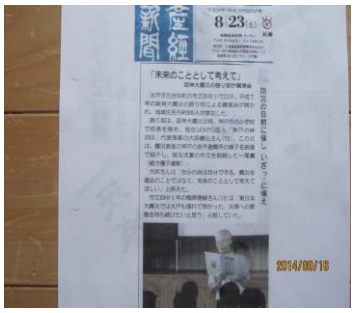
HUG 9/7	いばらき防災大学(茨城県)	林昌子、野口正弘、木村正行、谷口行男、鶴長文正、山田章、貝塚勇、中崎智雄、横山松夫、藤城充英、横田信子、宮本博海、野村彰、加瀬孝雄、黒田一雄、中村　隆、高橋茂、福島末輝、西村正夫、井出洋一
HUG 8/23	筑西市立中小学校	藤井　仁、酒井佐代子、高橋義一、萩野悦男、笠島昇治
HUG 8/19	阿見町役場(交通防災課)	林　昌子、鶴長文正、山田　章、小池　實、石引公子、貝塚　勇 野村　彰、宮本博海
HUG 5/12	つくば市桜学園(栄、九重、栗原各小、桜川中)	中村　隆、横田信子、鈴木　勇、猪塚光彦、黒田一雄、齋藤友幸 永倉喜代、福島末輝
DIG 8/22	水戸市吉田地区自治実践会	渡辺　平、櫛田　英、加瀬孝雄、井上亮二、益子さや子、小川欽也 豊崎吉光、高橋　茂、西村正夫
避難所開設 6/27	つくば市立二宮小学校	永倉喜代、若林美智子

3. 水戸市吉田で大震災の語り部による講演会と災害図上訓練DIG研修(火災編)

演題「阪神淡路大震災から学んだこと 」平成26年8月22日　午前10時～11時30分

◎ 午前の部　語り部による防災講演会

水戸市立吉田小学校



産経新聞:約300名の聴衆に語りかける

講師
神戸市教育委員会スーパーアドバイザー兼
神戸の絆「2005」代表理事　大濱義弘氏

◎ 午後の部　災害図上訓練DIG研修(6 班 36 名)

災害協力井戸、防火水槽・消火栓の確認

セイフティーネットをマップ上で確認

吉田地区防災連合会長から防災士ネットワーク各位に謝意の言葉

2014年(平成26年)8月27日 水曜日

災害備え図上訓練

水戸 吉田地区 住民、教諭ら参加

東日本大震災を踏まえ、地域住民の防災意識の向上を図ろうと、水戸市の吉田地区自治会連合会は22日、同市元吉田町の吉田地区自治会集会所で、図上訓練「DIG」を実施した。町内会長ら約30人が参加し、地域の地図に、自分が住む地域の地図・ブロック塀の倒壊、避難所や幹線道路などを書き込む作業を通じて、防災について考えた。DIGは、参加者が、自分が住む地域の地図に、火災や家屋の倒壊などを想定して意見交換、消防車が入れないような狭い道路があるなど、避難所が一部に集中しており分散させるべきなどの指摘が出された。住吉上自治会長の牧田郁子さん(46)は「自分の身を守るためにも、地図に書き込むことで、危険箇所を知ることが可能になる。実感が湧き、役に立つと思った」と話した。(今井俊太郎)

災害発生時の危険箇所などを地図に書き込む図上訓練の参加者＝水戸市元吉田町

2014/08/15

参加者から「住んでいる所の危険を知り、書き込むことで実感が湧き役にたった。」との意見が寄せられた。

この研修会では、南関東直下地震を想定した。阪神・淡路大震災と同規模とし、水戸の震度は6強、5k㎡「5,200 世帯」の吉田地区エリアで火災は、2か所から同時発生、全壊1棟、路地は塀が倒壊し、通行も困難となった。同地区は住宅密集地で、ライフラインが全て止まり、同時多発火災が発生した際は、神戸市長田地区同様に大規模な火災が予想される。

火災を想定した DIG 研修会は、県内で初めてとなるため、理事やブロック長等役員のほか、アドバイザーに茨城県自主防災組織結成促進推進員　茨城県消防設備協会の森田孝氏、高橋茂氏が出席した。共催として水戸市生活環境部地域安全課危機管理室、後援には、水戸市消防本部消防予防課、水戸警察署、水戸市吉田市民センターが協力のもと、6グループ36名に分かれて意見交換がなされた。

今回の研修会は、8月22日、「阪神淡路大震災」の語り部「神戸の絆2005」の代表理事兼神戸市教育委員会スーパーアドバイザーの大濱義弘先生より「阪神淡路大震災から学んだこと」と題して1時間30分の講演が行われた。DIG 研修者は、全員が講演会に参加しており、大震災や津波の犠牲者でなぜ警報が発令されて逃げられなかったのか、「正常性バイアス、同調バイアスの指摘、映像の記録から過去の教訓をどう生かすか」等の講話があり、講演は、午後の DIG 研修会に生かされ、活発な意見が交わされた。参加者からは、大震災当時の生々しさの映像を見て、「DIG 研修会は、いろいろな面で気づくことができ、災害に備える気持ちは以前より強くなりました。町内でも DIG 研修会をやってみたい。」と意欲的な地区もあり、関心の高さが見られた。なお DIG 第3段階（多くの意見に対する具体策）は、9月27日に実施の予定。

4.　*講演会並びに防災教室*

（1）　学校関係

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。（敬称略、順不同）

講演内容	対象団体名	参加会員氏名
生徒を中心とした防災教室	つくば市立谷田部中学校	永倉喜代、猪塚光彦、齋藤友幸
	茨城県立水戸特別支援学校	加瀬孝雄、渡辺　平
	茨城県立境特別支援学校	鈴木　勇、安東正好、福島末輝
	那珂市立瓜連中学校	井上亮二、湖口知郎、柴田美智子
	八千代町立東中学校	鈴木　勇、安東正好
	結城市立結城中学校	鈴木　勇
	茨城県立美浦特別支援学校	福島末輝、宮本博海
	水戸市立第四中学校	加瀬　孝雄
	茨城県立境特別支援学校	西村正夫、鈴木　勇

	つくば市立小野川小学校	福島末輝、宮本博海
	茨城県立結城特別支援学校	鈴木　勇
	茨城県立水戸特別支援学校	加瀬孝雄
	城里町立七会小学校	益子さや子、柴田美智子
地域との連携	土浦西根南２丁目老人会	宮本博海、福島末輝
その他	茨城県警察本部警備部	永倉喜代、益子さや子

地震から命を守る自助力を高める方法（城里町立七会小学校・那珂市立瓜連中学校）

益子防災士

井上防災士

撮影・柴田防災士

防災士ネットワークで初めて購入した「模型家屋」の筋交いの働き、仕組みと効果に興味深く観察している中学生の姿が印象的であった。

（2） いばらき防災大学、教育委員会　等

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。（敬称略、順不同）

内容	対象団体名	講師等
防災講座	いばらき防災大学（自主防災組織の活動事例）	加瀬孝雄、西村正夫、高橋　茂
	いばらき防災大学（防災士の役割）	高橋　茂

（3） 自治会・自主防災組織、社会福祉協議会関係

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。（敬称略、順不同）

内容	対象団体名	講師等
防災講演	土浦市民生委員児童委員協議会連合会	横田信子、益子さや子、福島末輝、
	小美玉市市民協働課	高橋　茂
	古河市社会福祉協議会	高橋義一、鈴木　勇

（4） 防災訓練への参加

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は、以下の通りである。（敬称略、順不同）

内容	対象団体名	参加会員
展示参加	茨城県、神栖市	黒田一雄、中崎智雄、小池實、横山松夫、山田章、野口正弘、井上亮二、藤城充英、西村正夫、中村　隆

5. 茨城県警察本部防災講演実施報告

このたび、茨城県警察本部警備部より、「災害にかかわる教養」講座における講師の派遣依頼があり、下記要領にて実施した。

○ 講演日時　平成26年6月17日（火）　午後0時50分～午後2時10分

○ 催場所　茨城県警察学校研修センター

○ 内　容　災害時要援護者対策及び災害時の女性の役割

○ 受講者　茨城県警察本部等警察官　約20名

当ネットワークでは、上記依頼内容に沿って「災害時要援護者対策」については益子さや子専務理事を、また「災害時の女性の役割」については阪神淡路大震災の実体験者でもある永倉喜代副エリア長を派遣し講演を行った。

永倉防災士

益子防災士

講演では、年齢が20代から50代という幅広い警察官の方々が受講された。この中に2名の女性警察官が参加しており、「身近な内容でわかりやすかった」との感想をいただいた。

また、質疑応答で「災害現場で警察官ができることは？」との質問があり、マスコミ等のメディアからは報道されなかった現場の生の実態等についていくつか紹介した。

この時の受講者の目の輝きが印象的だった。このことより、いかに受講者目線（何を聞きたいか、望んでいるか）が重要かつ大切であるかを、あらためて強く感じた。今後の講演活動に生かして行きたい。

真剣に受講される警察官のみなさん

6. おしえて防災士！ 本年度からスタート

NHK水戸放送局では、本年度から防災をテーマとした新番組「おしえて！防災士」コーナーが始まった。

このコーナーは、とれたてワイドいばらき、水曜の「知っ得情報局コーナー」の中で採りあげられ、月1回の放映となっている。これまでの出演実績と、これからの予定を下記に紹介します。

放映実績			
４月	防災士って！　西村防災士 ～防災士入門～	６月	梅雨が来た！　井上防災士 ～大雨、ゲリラ暴雨、ついでに竜巻～
５月	何が必要、防災グッズ特集　益子防災士 ～家庭編＆会社編～	７月	夏が来た！おしえて防災士　加瀬防災士 ～熱中症対策、海の事故対策～

井上防災士

益子防災士

7.8.9月は、集中豪雨、竜巻、土砂災害等の自然の猛威が襲い、甚大な被害もあり子どもや大学生の水の事故もまた悲惨で記憶に残るできごとであった。

「今後の放映予定」

最新記事に関しては、NHK水戸放送局のホームページに掲載されているので、そちらを参照されたい。

８月	台風に備えよう！ ～家庭でできる台風への備え～	12月	防災知恵袋 ～１年のまとめ～
９月	防災の日 ～地震に備える　地震にあったら～	1月	冬が来た！乾燥しますね ～火事対策　火事にあったら～
10月	食欲の秋！ ～食と防災～	２月	雪に注意！！ ～慣れない雪対策　どうする？～
11月	家族を守る！我が家の防災 ～子連れ防災～	３月	東日本大震災から４年 ～震災から何を学ぶ～

7．第３回　理事会報告

平成26年度第3回理事会が去る8月９日（土）、県・三の丸庁舎交流サルンにて開催された。

はじめに西村理事長より、今年度実施予定の東北被災地支援研修会の概要並びに本部と北関東連絡協議会共催の DIG/HUG フォローアップ研修会の概要説明があった。

また、報告事項として前第6項に記載したNHK水戸放送局制作の「おしえて！防災士」の放映内容と今後の放映予定が報告された。この他、中村専務理事より平成26年度県総合防災訓練の概要説明、福島副理事長より各種講演会・研修会の日程等について報告された。

主な議題と審議の結果は下記のとおり。

(1) 今後の講演会・研修会並びに各種イベント担当者の決定。

(2) 講演会等実施報告書並びに各種証票の更新、事業名区分の内容確認があり、提案どおり議決した。

(3) 平成26年度本部通常総会において決定された「防災モデル地域」創出の取り組みに沿って、当ネットワークにおいても取り組むことで議決。これに従って今年度は、エリア毎に1地域を選定し、「防災モデル地域」の創出に向け検討することとなった。

(4) NPO法人　茨城県防災士ネットワークの外部へのPR資料（パンフレット）の作成について、複数の印刷会社からの見積額等が提示され、金額の安い印刷会社へ依頼することで議決。

(5) 広報・機関紙部体制の強化見直しについて高橋副理事長より提案があった。

見直しの要点は、エリア毎に担当者を割り振る。新たに下記会員を、

宮本博海（県南東副エリア長）、湖口知郎（県北エリア会員）、柴田美智子（県北副ブロック長）。

また、一層の強化策として加瀬孝雄氏（県央エリア長）の副部長（昇格）について議決。

(6) 新会員の承認について

以下の4名が承認された。(敬称略、順不同)

①つくば市　小野泰宏　②常陸大宮市　人見克彦　③常陸太田市　小室　太　④鹿嶋市　大川太作

★ 女性会員紹介コーナー

県南東(阿見・美浦)副エリア長
兼　女性部副部長　　横田　信子

私はこれまで、私立医科大学病院で経理会計業務を中心に医事業務を 33 年間担当してきました。医事業務では患者様からの苦情も多く、中には「男を出せ」と言われることも多々ありました。

前職を退職後は、実家の建築会社の ISO14001(環境マネジメントシステム)の認証取得業務に携わりながら、女性の立場という勤務経験を生かし、平成 16 年から茨城県、また平成 18 年からは阿見町の男女共同参画推進委員としてお手伝いさせいただき、現在も活動しています。

一方、稲敷広域消防本部で応急手当指導員をしてきたこともあり、平成 24 年から始めた阿見町の男女共同参画出前講座において防災関係を担当することになりました。こうした背景から、防災士の資格を取得することになりました。

防災関係では「女性の視点を活かす」ことを重点的に取り組みたいと考えています。近隣の人達と仲良くすること、地域のくらしに溶け込むこと、お互いが思いやることを考慮しながら活動したいと思っています。また、日々の生活においてはだれしもが快適な生活を送ることを望んでおり、そこに男女の差はないはずです。地域で女性の立場を考慮するには、組織の中に女性を参加させる仕組みが必要と思っており、女性も管理者として加わった防災組織が出来ればと願いつつ防災士ネットワークの一員として今後も微力ながらお手伝いして行きたいと考えています。

★ 女性会員紹介コーナー　2

県南副エリア長　永倉　喜代防災士が、」茨城県広報紙「ひばり」の9月号に掲載されましたので紹介します。

○　茨城県広報紙「ひばり 9 月号」掲載
　テーマ　「もしもの時に備えましょう！防災対策」
　　～私たちにできること～
○　女性の視点から見た防災対策
○　災害に備えて私たちにできること

として、

- たくさんの防犯グッツを買い込むのではなく身近な物で何ができるのか考えて欲しい
- 東日本大震災ではまっさきに小学校に駆けつけ「児童にダンゴムシになって‥‥」と体を守る体勢を指示し、自宅に帰ったら懐中電灯を準備、水をためこむ‥‥‥

“3.11　あの日　わたしは”

東日本大震災発災時の活動

副理事長　兼　企画・研修部長　福島　末輝

当日、NHK-TV を見ていたところ、緊急地震速報が流れ、経験したことのない強い揺れに見舞われた。転倒・落下防止措置の防災対策をした人形ケースを見たが,異常はなくほっとした。タンス、茶ダンスは、滑り止めが効いており、

多少は移動したが実害はなく状況を写真撮影した。その後、地震の情報を収集するため携帯ラジオのスイッチを入れた。

近所の被害状況を知るため、午後3時ころ余震の続く中、長靴、ヘルメットを着用しラジオ、デジカメ等を持参し、町内の一人暮らしの年寄りを中心に見回りと警戒に出かけた。 町内では、屋根瓦が落ち、大谷石の塀が倒れ、通行を妨げていた為、住民は協力しあって障害物の除去に努めていた。これを見て私は安堵感を覚え、挨拶を交わし先を急いだ。近くに住んでいる不安げな年寄りに近づくと「怖かったけど布団をかぶった。先の戦で空襲の体験があり、その体験が生きた。怪我はない。」と聞き安心した。自宅は、ライフラインが全て止まり、不自由さを感じたがガスコンロやストーブを準備し、風呂の水は、トイレ用に使うなど工夫した。翌日、オフにしていた電源ブレーカーをオンに戻し、テレビのスイッチを入れると何れの放送局も東日本大震災を放映し続けていた。私は、津波の巨大さに驚き、破壊力の凄まじさに見舞われた三陸海岸の人々の心情を思う時、被害者の無念さに心が痛むのを感じた。

今後のイベント案内

毎年、11月5日が「津波防災の日」とされていることを踏まえ、茨城県と水戸地方気象台の共催で下記防災講演会が実施されます。入場無料です。

○名称　津波防災講演会【サブタイトル】－3.11 を忘れない、体験を伝える・生かす－

○日時　平成 26 年 10 月 31 日（金）13:30～16:00

○場所　ひたちなか市文化会館（小ホール）　定員約 400 名

○内容

(1)「東日本大震災の語り部」による講演　・・・・・60 分

（岩手県陸前高田市　被災地語り部　釘子明氏）

(2)県内の関係者による体験談・・・20 分×3 機関

（海洋高等学校，ひたちなか海浜鉄道，茨城放送（予定））

(3)「稲むらの火」の朗読　・・・・・10 分

（NHK 水戸放送局のキャスターによる朗読）

(4)その他，ロビーでの津波防災関連の展示

なお、**参加希望の方は下記要領にて申込み**ください。

・申込み締切　：10月25日（土）必着

・申込み先　：

〒　311-4305　　東茨城郡城里町上青山789－1

Tel，Fax　共　　029-288-7536

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　　ma60mi24@amber.plala.or.jp

理事長　西村　正夫

◎市町村の防災担当課の皆様へ

NPO法人茨城県防災士ネットワークでは、防災講演会や研修会の講師、DIG（災害図上訓練）やHUG（避難所運営ゲーム）、防災マップづくりなどの指導も行っております。

講師をお探しの場合は、下記までご連絡ください。

○　窓　口　：福島　末輝　（役職　副理事長（兼）企画・研修部長）

連絡先　：〒300-0842　土浦市西根南1－12－44

TEL　029-842-1823（自宅・FAX 兼用）

メールアドレス　sueki-f@jcom.home.ne.jp